

ちがうよ ちがうよ まるでちがうよ ぼくのほしいのは、さいている
「はな」ではなくて かおにある 「はな」だよ

お友達のとんぐちゃんとお揃いのものが欲しいだるまちゃんが、お父さんの
だるまどんに助けてもらいながらほしいものを見つけると言うお話です。

「ゆず」とよばれる少女が、この絵本に触れて感じたのは、自分はだるま
ちゃんとは違い、誰も頼れる人がいない、誰にも欲しいと言えない幼少期を過
ごしていたことに気づいたのです。両親はほとんど家にはおらず、日々、幼い
兄弟姉妹の世話を追われていたことに気づき、そのような自分の過去を理解す
ることで、「私は、心を改めて、悪の道から離れ、善良に生きたい」と誓うの
です。私は「ゆず」の決断を信じたいと思いました。「ゆず」さんに、本当に
信頼して、頼れることができる人、祈り求めることができる人と出会うことを
祈り求めます。

幼きときだけでなく、人間には、信頼して祈り求める相手が必要なのです。
そうでないと悪の道に向かってしまうかもしれないのです。

お祈りはしばしば信仰者の生活の重要な手段とされます。しかし、お祈りは
手段ではなく、目的です。信仰生活を送るために祈るのではなく、祈るために
信仰生活を送るのです。私たちはお祈りして奉仕活動や様々な活動を始めま
す。奉仕活動や様々な活動がさらに多くの祈りを生みます。ところが私たち
は、特に、私は、様々な活動の中で、誤りを起こしてしまいます。向かう方向
を誤ることがあります。それは、祈りによる導きを欠いてしまうからです。

ヘブライ書11：1「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を
確認することです。」とあります。神さまのお姿は見えないけれども、神さま
の存在を信じるのが信仰です。見えないから、信じるのが信仰です。

見て認知するのは、視覚の働き。触れて認識するのは触覚、嬉しさや楽しさ
は精神機能、では「信じる」とはどのような機能でしょうか。「魂の働き」だ
と思います。霊的な働きです。お祈りの目的は、見えない神さまに近づき、そ
の御心を聴くことです。たやすいことではなく、神さまの恵みのうちに緩やか
に成長して行くものです。気を落とさずに、粘り強くお祈りする中で、成長し
て行くものなのです。

人間には、道を踏み間違わないために、いくつになっても祈り求めることは
必なのです。私たちには神さま、主イエスさまがおられます。お祈りを大切に
新しい一週間を歩み出しましょう。そして、神さまの恵みのうちに、お祈りの
名人、お祈りの達人になっていきましょう。

父と子と聖霊の御名によって アーメン

<ウクライナの平和のための祈り>

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいませ
ように。平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによっ

て、み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な子どもたち
を、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン。

<主の祈り>

主イエスが教えられたように祈りましょう。

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン